

# 大淀川学習館を利用する聴覚に障がいのある方への対応

大淀川学習館  
主事 日高 由貴

## 【要 約】

大淀川学習館（以下、当館とする）では、団体の利用数が多い。その中で、聴覚に障がいのある方が来館した時の対応について研究した。施設の見学、専門職員の助言から、当館にて現在できることを考え、受付での対応や川のシアターの字幕を投映するなどの工夫をした。実際に聴覚に障がいのある方と手話学習者に来館していただき、自由記述式のアンケートを実施した。その結果、受付ではコミュニケーション手段として、アプリケーション（以下、アプリとする）の使用や使用方法の周知、川のシアターでは字幕の情報の整理が大切であることが分かった。

## はじめに

当館の年間利用団体数は、新型コロナウイルス感染症の前は700件程度であった。新型コロナウイルス感染症が拡大し始めた令和2年度からは減少し、160件程度である。団体利用が多い当館では、健聴者と一緒に聴覚に障がいのある方も来館することがある。本研究では、当館を多くの方に利用していただけるように、聴覚に障がいのある方への対応力の向上を目指す。

## 第1章 聴覚に障がいのある方

聴覚に障がいがあるといっても、音が聞こえにくい方から全く聞こえない方まで幅広い。補聴器を装着し聞き取ることができる方、手話にて会話をする方、高齢のために音が聞こえにくくなり聴覚から入る情報を得ることが難しい方まで様々である。聴覚障がいのある方と健聴者とのコミュニケーションの手段は、手話や筆談等がある。私たちは、難聴者から手話を使用するろう者まで、当館をよりよく利用していただくために、情報提供に配慮する必要がある。

## 第2章 施設見学

### 第1節 宮崎県立都城さくら聴覚支援学校（令和4年9月15日実施）

聴覚に障がいのある方の生活について知るために、宮崎県立都城さくら聴覚支援学校に見学に行った。見学した際に気付いた、学校が工夫していることを簡単に表にまとめる（表1）。

表1 宮崎県立都城さくら聴覚支援学校が工夫していること

項目	物品や方法	用途
環境	回転灯 (写真1, 2)	チャイムや災害を知らせる際に光る。
コミュニケーション	筆談ボード (写真3)	他校の健聴児とのやりとりにて使用する。
	手話	児童・生徒とのやりとりは基本的に手話、音声。
学習	口元の見えるマスク	口形を見せ発音の練習に活かす。
掲示物	国語の教科書の掲示、助詞に印を付けた文章の掲示 (写真4)	助詞の理解の促進。



写真1 回転灯

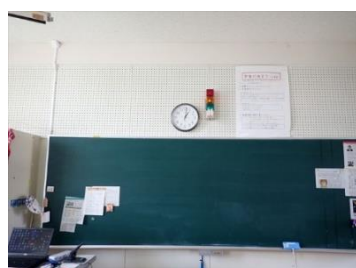


写真2 回転灯の配置場所



写真3 筆談ボード



写真4 助詞の学習

## 第2節 社会福祉法人宮崎県聴覚障害者協会宮崎県立聴覚障害者センター

宮崎県聴覚障害者協会宮崎県立聴覚障害者センター（以下、センターとする）職員の方が3度来館し、コミュニケーションツールや工夫する点について助言をいただいた。

1日目（令和4年10月23日）：見学及び改善点について

2日目（令和4年11月20日）：大淀川学習館体験会（以下、体験会とする）の打ち合わせ

3日目（令和4年11月26日）：体験会、協議

## 第3章 当館での対応

宮崎県立都城さくら聴覚支援学校の見学や、センター職員の方の助言から、現在実施していることと、新たに当館で改善することをまとめた（表2, 3）。実施していることについては、今後も継続して実施する予定である。



写真5 耳のシンボルマーク

表2 聴覚に障がいのある方への配慮

場所	具体的な手段や方法
受付	耳のシンボルマークを表示（写真5）、ホワイトボードや紙での筆談。
観察ステーション	DVDに字幕を付ける。
廊下等	災害時に音声フラッシュが光る。

表3 当館で改善すること

場所	具体的な手段や方法
受付	ホワイトボードのみでなく、コミュニケーションアプリの導入（表4）。
川のシアター	音声の説明が多いため字幕をプロジェクターで投映する。

表4 導入したアプリについて

アプリ名	A	B
主な機能	音声を文字にする。 文字を音声にする。 チャット機能がある。 定型文を登録することができる。	多言語に対応している。 音声を文字にする。 文字を音声にする。 漢字かな変換や手書き機能。

## 第4章 大淀川学習館体験会と報告

### 第1節 方法

体験会を実施し、生き物の説明を職員が行い、手話学習者が通訳をする（写真6）。最後に、自由記述式のアンケートを実施した（図1）。



写真6 手話通訳の様子

### 第2節 対象

成人男女6名  
 （うち、聴覚に障がいのある方2名）

### 第3節 受付

受付や団体ガイドランスでは、聴覚に障がいのある方に対して、AやBのアプリの導入を行った。

Aはインターネット環境と関係なく使用することができた。また、定型文も登録可能なため、当館にて使用頻度が多いガイドランス等を登録しておくとうれしかった。

Bは、インターネット環境が整っていない場所では、使用が難しかったが、音声認識機能が優れていた。

川のシアターの感想を聞かせてください。字幕はどうでしたか。  
 見学して良かった点を教えてください。  
 見学して改善してほしい点（わかりにくい点）があれば教えてください。  
 掲示物でわかりにくいものがあったら教えてください。  
 このような施設（博物館等）を利用するときに気になることを聞かせてください。  
 大淀川学習館にまた来たいと思いますか。 はい・いいえ  
 その他何かご要望等がありましたら書いてください。

図1 アンケート

#### 第4節 川のシアター

字幕を音声の通りに、プロジェクターにて画面の上部に映し出した(写真7)。文字の大きさが小さいため、ルビは括弧内に入れて表示した(図2)。

アンケートへの回答として、文字が小さい、シアターの字幕位置が下部であるのに対し聴覚障がいのある方への字幕が上部にあると読みにくい、文字数を少なくした方がいい、ルビを文字の上部に打ってほしい、手話通訳を付けてほしいなどの意見があった。

文字が小さいという意見があったが、プロジェクターを座席近くに置くことから、文字の大きさの調整は難しく、座席を指定することで、字幕を見る事はできると考えた。

健聴者も聴覚に障がいのある方も一緒に楽しむためには、字幕をすべてに付けてしまうと、映像が見えにくくなってしまう。両者が楽しむためには音声情報も文字情報も、簡潔にする必要があると感じたため、字幕の試案を作成した(図3)。



写真7 川のシアターの画面

**みなさんが今(いま)いる大淀川(おおよどがわ)学習館(がくしゅうかん)の前(まえ)を流(なが)れているのが大淀川(おおよどがわ)です。**

図2 字幕

**大淀川学習館(おおよどがわがくしゅうかん)の前(まえ)の川(かわ)が大淀川(おおよどがわ)です。**

図3 字幕試案の一部

#### 第5節 全体を通して

館内の見学を通して、良かった点や改善点についてのアンケート結果をまとめた(表5)。良かった点として、「多くの人に楽しんでいただけたと思う」という回答があったことから、今までも掲示物などに工夫がされていたと感じた。また、「大淀川学習館に来たいか」の質問に対して、全員が「はい」と回答があった。

表5 館内の見学を通して

良かった点	改善点
元より解説展示等が多く、分かりやすい内容で多くの方に楽しんでいただけたと思う	避難方法の表示の検討
掲示物の説明が工夫されていた	

## 第5章 今後の展望

今後は、他の職員が対応できるように、アプリの使用方法を周知することも大切だと感じた。

聴覚に障がいのある方への対応を考える中で、様々なことに気付いた。受付の対応方法では、多言語のアプリを知り、日本語以外の言語を使用している方が来館した際にも使用できると考えた。

川のシアターでは、音声情報や文字情報も簡潔にすることにより、小さい子どもたちにもより楽しんでもらえると感じた。今回は、字幕をプロジェクターで投射したが、今後字幕を付けた番組を作ることが望まれる。体験会では聴覚に障がいのある方から、金魚の飼い方について質問を受けた。当館では、このような質問が健聴者から多く寄せられている。聴覚に障がいのある方も似たような疑問を持つことはあり、当館のコミュニケーションボードを作成し利用していくことも今後必要になるのではないかと感じた。また、コミュニケーションボードは高齢によって難聴になっている方、発達障がいの方にも有効であると考ええる。

聴覚に障がいのある方が来館しやすいようにと考えた結果、日本語以外を話す方や子どもたち、高齢者にとって、当館をより楽しんでいただくことができる工夫に繋がっていると感じた。今後、聴覚に障がいのある方や様々な障がいや特性を持つ方にとって、より当館が楽しい場所になると考える。

### おわりに

本研究にあたり助言をくださった宮崎県聴覚障害者協会宮崎県立聴覚障害者センター職員の皆様や体験会に参加してくださった方々、見学を受け入れてくださった宮崎県立都城さくら聴覚支援学校の職員の皆様、協力してくださった当館職員にお礼を申し上げます。

### 参考文献・参考資料リスト

- 1) 大沼直紀 監修, 「ビジュアルブック∞障害のある人とともに生きる 2耳の不自由な人をよく知る本」, 合同出版, 2022
- 2) 小川義和・五月女賢司, 「発信する博物館 持続可能な社会に向けて」, ジダイ社, 2021
- 3) 駒見和夫・筑波大学附属聴覚特別支援学校中学部, 「特別支援教育と博物館—博学連携のアクティブラーニング—」, 同成社, 2016
- 4) 東京都聴覚障害者連盟、日本点字図書館 監修, 「楽しくおぼえよう！はじめての手話と点字 耳と目の障害を知ろう」, 金の星社, 2020